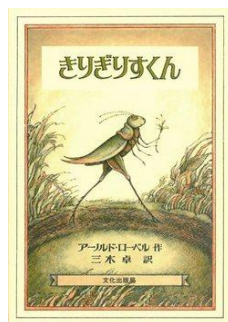


児童室だより

春日井市図書館
2014.7月号

図書館に設置されている各コーナーからいろいろな本の紹介をしています。
今回のテーマは「たくさんの虫」です。



きりぎりすくん

アーノルド・ローベル/作
三木 卓/訳
文化出版局 E/フン/Z22

(小低)

旅に出かけたきりぎりすくんは、とちゅうでいろいろな虫たちに出会います。彼らはみんなへんてこで、きりぎりすくんはおどろいてしまいますが、みんなそれぞれちがっていて、さまざまな生き方があるんだということを知るのでした。

低学年から読めますが、大きい人たちにもおすすめの本です。



これもむし ぜんぶむし

内田 麟太郎/作
齋藤 隆夫/絵
すずき出版 E/スス/11-27

(小低)

たくさんのむしが出てくるおはなしです。でも、子どもたちに人気のかっこいいカブトムシやクワガタムシはでできません。はらのむし、にがむし、ちやわんむし・・・。

いばりんぼうのむし学者のところに集まる虫は、へんてこりんなむしばかり・・・。

ことば遊び(だじゃれ!)が楽しめる絵本です。みなさんもいろいろな虫を探してみてください。



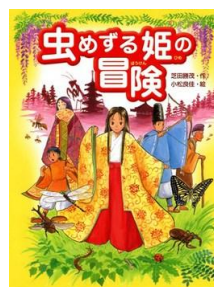
むしをたべるくさ

渡邊 弘晴/写真
伊地知 英信/文
ポプラ社 47/ム/07

(小低)

虫をつかまえて食べる不思議な植物を食虫植物といいます。水と太陽が大好きで沼や湿地にはえています。この植物達は変なすがたをしています、まじめに生きています。

では、どうやって虫をつかまえて食べているのでしょうか？この本は虫を食べるようすと草の秘密や仕組みをさぐる写真絵本です。



虫めずる姫の冒険

芝田 勝茂/作
小松 良佳/絵
あかね書房 913/アカ/07

(小中)

平安時代、葵祭りの行列に突然おそいかかったハチのむれ。ピンチを救ったのは、虫が大好きな変わり者の姫。その日からなぞの金色の虫「金剛虫」をめぐって、姫の冒険が始まります。おともは、ハチ飼いの翁(おじいさん)と従者のけらら丸。

姫がどうやって事件を解決するか、ハラハラして最後までスリルたっぷり。

この話を読むと、虫が苦手な人も少しは好きになるかも。

ボランティアさんのおススメ本



子どもに語るアイルランドの昔話

渡辺 洋子・茨木 啓子/編訳
こぐま社
99/コ/99

「子どもに語る～昔話」シリーズは、ストーリーテリングのテキストとして使われます。言葉によって、その情景や人物が自分の中で描けると、お話を聞く楽しみが広がります。

「アイルランドの昔話」の中には、日本の「羽衣伝説」に似た「オイン・オーグと人魚」というお話があり、人魚の肩かけを隠すことによって、人魚と結婚しますが、隠し場所をいつも気にしてる、というものや、日本には、あまりなじみのない「妖精」が出てきて、人間の子どもをさらったり、取りかえたりするお話もあります。想像の翼をひろげて、昔から伝わる、世界中のお話に触れてみてはいかがでしょうか。
(金の鍵)

夏がやってきた!

暑い夏の日、涼しげな海の世界の本はいかがですか。



うみの
かくれんぼ
サンシャイン水
族館/監修
ひさかたチャイ
ルド
48/ウ/12



いのちあふれる
海へ
クレア A. ニヴォ
ラ/作
おびか ゆうこ/訳
福音館書店
E/ウ/13-29

春日井市図書館・児童室のご案内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9時～午後8時
休館日：月曜日(休日の場合はその直後の休日でない日)
電話 (0568) 85-6800